

文部省特選

日本映画ペンクラブ推薦
優秀映画鑑賞会推薦

伝統工芸の名匠

磯井正美のわざ

——きんま蒟醬の美——



「この映画の三つの特色」

——やぎ はし柳橋しん眞——
(金沢美術工芸大学教授)

この記録映画の一つのテーマは、蒔醬（キンマ）のルーツを訪ねることです。キンマは香川漆器を代表するわざで、我が国の他産地ではみられません。漆器の表面を彫刻刀で文様を彫り、色漆を埋めて研ぎ、華やかな色彩の線描文様を表わします。もともとは古代中国のわざが、東南アジアに伝えられ、現在もミャンマー（ビルマ）やタイで行われています。

キンマの器物は室町時代ころに輸入され、その明るい異国趣味が珍重されました。その後、絶えていたものを江戸末期に高松に現れた天才漆芸家たまかじぞうこく玉楮象谷が復興し、以後、いそいじょしん磯井如真らが現代化の努力をはかってきました。

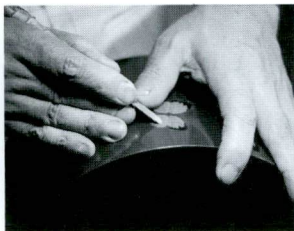
このたび、キンマの人間国宝の磯井正美氏とともに撮影隊がミャンマーの漆の里ミンカバ村を訪れました。日本の漆と違って硬い漆の肌にならないので、彫り具合は異なりますが、全体としてはよく似たものです。またキンマの語源となった珍しい風習も紹介されています。ここには、まだ漆文化が生きていました。

もう一つの特色は漆の里ミンカバ村を生んだパガン王朝文化の紹介です。千年ほど前に盛えたパガン王朝は都に数千の仏塔を建立しましたが、その廃墟の朝、昼、夕方の太陽の光で変化する美しさは印象ぶかいものです。

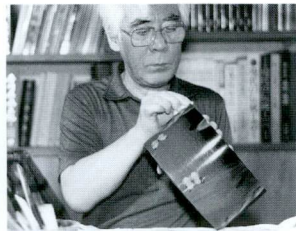
主題ともいえる三番めの特色は、磯井正美氏のわざを明らかにしたことです。父の磯井如真はキンマの現代化に尽しましたが、磯井正美氏はさらに微妙な色調を開拓して、キンマの表現能力を豊かにしました。今回、パガン紀行の取材から帰国後の創作まで詳細に記録が取られました。磯井さんが肌で知った民情の暗さ、時計が止まったような廃墟の静けさ、そして青く澄んだ空の明るさという三者の異なる印象を一つの作品にまとめることに苦心されました。現代の漆芸の最先端というばかりでなく、現在、我が国を代表する美術家の一人ともいえる、鋭敏な芸術家の創作の秘密が明らかにされたことは、広く関心をよぶに相違ありません。



色漆を埋める



蝶を彫る



最後の仕上げとなる磨き

“僕達は磯井さんと共に旅に出た” ミャンマーの古都パガンへの旅である。

黒崎 洋一
(記録映画監督)

蒔^{きんま}醬の技法は古く中国に発生し、東南アジアを経て日本に伝来した。中国では残念ながらすでに原初的な技法は消えてしまったが、東南アジアのミャンマーでは、いまだに蒔醬の古来の技法が生きているという。ならば蒔醬の卓越した技で人間国宝に認定されている磯井正美氏に蒔醬の故郷を旅してもらい、そこで得たイメージを基に新たな美の世界を創作してもらおうではないか——。そして僕達はその製作過程を映像にとどめ、漆芸の中でも一際異彩を放つ蒔醬の技法、蒔醬の美を紹介していこうではないか——。この映画「磯井正美のわが—蒔醬の美—」は、こうしたねらいから始まった。

廢墟と化したパゴダが連綿と続く古都パガンへの旅——。確かにこの地にはプリミティブな蒔醬の技法が生きていた。漆の里ミンカバ村である。

磯井さんはミンカバ村に古代のおおらかな漆の技を見、古都パガンにかつての仏教文化の跡を見た。そしてそこから製作のイメージを得た。

「古都パガンの明と暗、止まったような時空、それを一つの合子に蒔醬の技法で表現したい……。」

『漆を塗り重ねた面に文様を彫り、色漆を埋めて研ぎだす』蒔醬の技法は、言葉にするとは極めて単純に思える。しかし磯井さんの蒔醬は、塗りといい彫りといい極めて複雑であり時間がかかる。丸刀や角剣を用い微妙に彫り進める。様々な原料からなる色漆を作る。ほかしの技を用い、ひたすら色漆を埋める。そんな行為が繰返し繰返し行われていくのだ。それはまるで、あのシジフォスの神話のようでさえある。僕等は磯井さんの作品製作にかける執念を表現すべく、ひたすら磯井さんの技を見つめ続けた。やがて、合子全体を研ぎ出した時、僕等は初めて磯井さんの新たな美の世界を見た。

磯井さんのパガンへの熱い想いが如何なる作品を生んだか——
映画を御覧いただきたい。



パガン漆芸学校で指導する
磯井先生



蒔醬・線彫り(ミンカバ村にて)



めずらしい手ロクロによる磨き
(ミンカバ村にて)



乾漆波文盛器



蒔醬月あかりじきろう噴籠



蒔醬煙管草文盆



蒔醬むらさき箱



蒔醬存清バガン紀行合子



蒔醬石盤箱せきばん

作品名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉

「磯井正美のわざ」

——蒔醬の美——

(35mm/カラー/40分)

企画：財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

製作：株式会社 日経映像

監修：柳橋 眞

製作スタッフ：製作・小谷田 亘

監督・黒崎洋一

脚本・黒崎洋一

撮影・高畦幸一

撮影助手・寺沼範雄

高橋秀明

照明・松橋仁之

音楽・広瀬量平

効果・尾杉龍平

原版編集・井上正司

解説・城 達也

録音・東京テレビセンター

現像・IMAGICA

協力：文化庁文化財保護部

香川県漆芸研究所

東京国立近代美術館

高松市美術館

(社)日本工芸会

ミヤンマー映画公社

作品写真：アローフィルムサービス



バガン遺跡の夕景

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL 03-3494-7653 FAX 03-3494-7597